

C-46 乳児服設計に関する基礎的研究(第2報)乳児の体型の特徴について

お茶の水女大家政 ○石井万津子 青山学院女短大 磯谷藤枝
実践女大家政 飯塚幸子 お茶の水女大家政 天野節子

目的 乳児服設計における基礎的研究として、第2報では、乳児の体型の特徴について検討を試みた。資料は、第1報で用いたものと同じの乳児1316名(男児727名、女児589名)の身体計測値15項目である。

方法 乳児の体型把握は示数値によった。すなわち、身長を尺度とした6項目(下肢長/身長, 上肢長/身長, 足長/身長, 肩峰幅/身長, 最大股幅/身長, 胴縦囲/身長), 胸囲を尺度とした6項目(頭囲/胸囲, 頸付根囲/胸囲, 腹囲, 胸囲, 腰囲/胸囲, 上腕囲/胸囲, 大腿囲/胸囲), 上肢長/下肢長, 最大股幅/肩峰幅およびローラー示数, カウプ示数の合計16項目を算出し、各示数項目の月令的变化によって乳児の体型の特徴を検討してみた。

結果 1)月令に伴う変化傾向によって示数値16項目を4つの型(I増加型, II増加・減少型, III減少型, IV減少・増加型)に分類することができる。また各示数項目の変化曲線によると、男女ともに変移点は2か月または5か月にみられる。2)男女ともに2か月児の体型の特徴は、頸付根囲/胸囲, 腹囲/胸囲が著しく大きく、下肢長/身長は著しく小さい。従って頸部が太く、腹部が樽型に膨満していて、下肢が短い体型であるといえる。5か月児の特徴は、身長に対する肩幅・股幅の比率、および胸囲に対するほとんどの周径項目の比率が最大となり、最もずんぐりした体型であるといえる。12か月児の特徴は、幼児と比較した場合、頭囲/胸囲がやや大であるが、比下肢長・比上肢長はほぼ等しい。